

国宝の裏山で

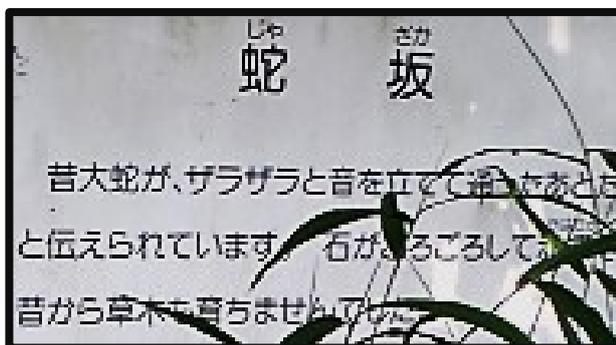
国宝 金蓮寺弥陀堂



▲愛知県には国宝建造物が2か所で3件ある。その一つ、西尾市の吉良町饗庭（あいば）に「金蓮寺弥陀堂」（こんれんじみだどう）がある。現存する愛知県内最古の建築物で、鎌倉時代の貴重な遺構で平安時代の住宅建築の影響を色濃く残すと評価されている。山裾のこじんまりとした境内に素朴な檜皮葺の美しい屋根が見どころか。その裏手の

標高100mの鬱蒼とした雑木林の小山、ここが今、私の山のトレーニング場である。

▲行程は、100段の石段と200歩の上り坂の車道、続いて「蛇坂」と言われる100段の擬木の階段を登ると、山の中腹に雑草に埋もれそうな中、桜木の並ぶ白山公園。戦時中に軍が掘った塹壕



跡が今も残る。100歩ほどの丘陵地、ここで一服し、更に200歩の上り坂の車道と9段の階段を登ると小さな白山神社と展望台。これがすべてで、このメニューを2回こなす。2回目には汗をかく。初めて試登したときは、2つ目の100階段を登り切って、ゼイゼイと肩で息をし、呼吸がなかなか止まらなかったが、2回、3回と通ううちに明らかに楽になった。自宅から往復30分、登下降2回で50分、休憩も入れ1時間半弱のトレーニングである。足腰に疲れが残ることもなく、良い場所を見つけたと自己満足している。時たま出会う、地元参拝の皆さんと、あいさつや言葉を交わすのも楽しみの一つである。



▲国宝金蓮寺弥陀堂、饗庭神社、祠、白山神社と4か所でお賽銭。小銭で済ます施設使用料みたいなものである。誰もいない鬱蒼たる緑の中、6月でも鶯が鳴いており、大きな蛇にも出会った。4月は地元桜保存会の皆さんが手製のベンチや仮設トイレも設置し観光客を迎える。寺と神社、伝説、戦時遺構、氏神様や桜木の守り人、山里に今なお残る日本の原点か。

令和4年6月15日—— 織田